

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年6月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103946
法人名	株式会社 ショコラ
事業所名	グループホームショコラうすき
所在地	鹿児島県鹿児島市宇宿7丁目14番3号 (電話) 099-275-7075
自己評価作成日	令和4年5月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、宇宿の閑静な住宅地に立地しており、直ぐ近くには医療機関(しょこらクリニック)やスーパー等があり、ご利用者様にとって恵まれた環境の中にあります。ショコラグループとしては、グループホームショコラながかり、小規模多機能ホーム、共同託児所(ぶちショコラ)、かごしまショコラ保育園、しょこらクリニックの事業も行ってあります。同施設内に共同託児所(ぶちショコラ)が併設しており、以前は子供達との交流を取り入れ、楽しんで頂いている中で、ご利用者様の日常生活における活力をもたらし、生き甲斐や心の充実に繋がる環境作りにも取り組んでおりましたが、新型コロナウイルス感染症予防の為、現在は子供達との交流は中止致しております。また、スタッフにおきましては、「今日が最期の日」という気持ちで、一日でも長く楽しい時間を過ごして頂ける様にスタッフ一同、日々努力をしております。ご利用者様とご家族様との絆や関係作りを大切に、より良い時間の提供も行ってあります。又、施設内での日々の生活を解かって頂く為に、日々の様子や活動参加中の様子を写真撮影し、ショコラだより(事業所新聞)に一人一人個人の写真を添付しお便りも添えて毎月配布致しております。ショコラだより(事業所新聞)はショコラうすきのホームページでも閲覧できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員が統一したケアを提供できるよう入居時のアセスメントにおいて、本人家族の思いや暮らし方の希望を丁寧に聞き取っている。また、重度化や終末期支援につなげられるケアプランになるよう、主治医や訪問看護師、薬剤師等、関係者の意見や助言も参考にした総合的なケアプラン作りに努めるとともに、定められた期間や身体状況の変化時だけではなく、本人家族の思いの変化にも柔軟に対応するため、繰り返しカンファレンスを行い、状態や状況に即したケアプランを作成し、日々の支援に反映させている。

物心両面の幸福追及、社会事業の質の向上、健康と社会の発展を理念に掲げるほか、ユニット毎の理念も掲げ毎日唱和するとともに、行動手帳も読み合わせることで理念の意識付けと共有を図っている。また、理念が実践できているかを毎月のミーティングで振り返る機会を設けることにより、理念の重要性を確認し、更なる理念の共有と実践につなげている。

権利擁護や身体拘束に関する研修を年間研修計画に組み込むとともに、スピーチロック等、言葉による拘束については、定期的に話し合う機会を設けることで自己啓発につなげている。また、「ショコラ便り」を地域の回覧板に入れてもらうことで事業所の様子を発信し、地域の人にも理解を求め、見守りや声掛けをしてもらえるような関係を築いている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で職場全体の理念と各ユニットで作成した理念と「行動手帳」を毎日1ページずつ唱和し互いに意識し日頃のケアに繋げて実践しています。理念は入口と共有スペースに提示しています。	法人理念とユニット毎の理念を掲げ毎日唱和するとともに、行動手帳も読み合わせすることで理念の意識付けを図っている。また、毎月のミーティングで理念が実践できているかを振り返る機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	中間地区の町内会へ加入していますが、新型コロナ禍の為、中間地区の町内会での行事が開催されていない為、交流が出来ていない状況です。近所の方から鉢植えのお花を頂いたりと日常的に交流があります。	これまでは小学校の職場体験やボランティアの受け入れ等、学校や地域住民等と積極的に交流していたがコロナ禍の現在は感染症予防のためやむなく交流を控えている。近隣住民とは散歩の際に挨拶や会話を交わす等、良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の町内会の話し合い（総会、協議会）への参加日常的にも地域の住民との交流をコロナ禍においても、限られた中で情報の提供や情報収集をしやすい状況作りに努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族に対して年2回のアンケート調査を回答しやすいように無記名で実施しています。頂いたご意見は家族会や運営推進会議にて共有し改善に取り組んでいます。	家族や民生委員、地域包括支援センターや薬剤師等が参加する運営推進会議は現在、コロナ感染症予防のため職員のみで実施している。内容としては、運営活動ヒヤリハット、利用状況について話し合うとともに、家族アンケートも参考にしながらサービスの向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会合などの案内があった際には積極的に参加しています。又ホームページなどを閲覧し、閲覧した情報は他のスタッフへも情報を共有しサービス向上に努めています。	行政とは地域包括支援センターからの利用状況の確認や行政からの研修案内等、ホームページを確認することで情報収集に努め、可能な限り参加し、顔を合わせることで協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の計画で定め各ユニットミーティングにて主任・副主任を中心に定期的に身体拘束廃止の研修を行い理解を深めて頂くと共に、身体拘束等適正化のための指針設け身体拘束ゼロに取り組んでいます。	「身体拘束等適正化のための指針」を準備し、定期的に話し合いを行うほか年間研修計画でも虐待や身体拘束に関する勉強や取り組みについて意見交換を行っている。また、スピーチロック等、言葉による拘束については、敬いの気持ちを忘れないことや馴れ合いの関係にならぬよう気を配り接すること等について定期的に話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の計画で定め各ユニットミーティングにて主任・副主任を中心に定期的に虐待防止の研修を行い理解を深めて頂いて虐待防止に職員全員で取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の計画で定め各ユニットミーティングにて主任・副主任を中心に定期的に域福祉擁護事業や成年後見人制度について学び取り組んでいます。ご利用者様で必要な方には活用できるように支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行い、不安や疑問点を伺い納得された上で契約を進める様に留意しています。契約後も不安や疑問に思う事があればいつでも伺えるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、ご利用者様や御家族様とお話する機会を設けたり年2回のご家族様へのアンケートを実施、無記名ですの自然な形で思いを引き出せるように努めています。アンケート以外でも意見などあればその都度お電話などでお話を伺うようにしています。	利用者からは日々の様子や言動から、家族からは面会時やアンケートにより思いや意見を尋ねている。また、毎月家族に送付している「ショコラ便り」は表面に利用者の写真や活動内容の報告、裏面には個別の写真と担当者による意見や日々の様子について記載されており、家族が意見や感想を出しやすいよう工夫されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の自己評価と職員が会社を評価する機会を設け、3者面談等で意見や要望を聞き、必要に応じて個別相談にも応じている。現在はコロナ禍の為3者面談は行っておらず、その都度、何かあれば必要に応じていつでも聞く機会を設けております。	職員の意見は朝夕の申し送り時や毎月のミーティング時に聞き取るほか、年2回人事考課を兼ねた自己評価や要望アンケート、また、必要に応じて個別面談を実施する等して職員の思いや提案を丁寧に汲み取り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいように希望に沿った条件で働ける環境を整備しています。職員とのコミュニケーションを図り、給与は資格だけではなく職員本人の努力や実績、勤務状況や自己評価を考慮して決める体制にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の計画書に基づいて定期的勉強会を行っています。回覧の中に社外研修の案内を行い、社外研修へ受ける機会を設けています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員との研修会や懇親会の機会を設けるなどして意見や要望を聞いたり相談しやすい環境作りを心掛けていましたが、コロナ禍の為、個別で何かあれば相談できる環境作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するにあたりご家族様やご利用者様には必ず見学して頂きその場の雰囲気を知って頂き納得して頂き、スタッフも訪問を行う様にしている。ご本人様の不安や要望を聞き受け止める様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様についても、上記同様、納得してもらったうえで利用して頂けるように十分な話し合いを行い安心してサービスを利用して頂ける様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ミーティングなどでスタッフ間の情報共有を行いご利用者様にとって今一番何が必要なのかを考えて安心してサービスを利用して頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のこれまでの生活されてきた中での趣味や好きな事を大切にし長年の技や知恵を教わる事で、ご本人様の人格を尊重しながら過ごすように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、コロナの状況に応じて面会を日曜日の予約制で15分間の制限を設けて実施したり、面会の中止したりしています。お電話や月に一度の「ショコラだより」にて日頃の様子写真の添付とお手紙を書いてお知らせしご本人様とご家族様が良い関係を保てるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防に努めながら感染状況を見ながらデイサービスにおられる馴染みの方と時間を決めてですが交流を行っています。	コロナ禍により自由な外出は困難となり、家族との面会についても制限している状況であるが、携帯電話による知人や家族との会話や職員による電話や手紙の取り次ぎ、ドライブや近隣散歩、体操等、できることに取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを通じて利用者同士が関わり合える環境作りを行っています。朝の体操の時など仲良く一緒に体操をされています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了された後も年賀状などを出して関係が切れないように努めています。何かご相談ごとがあれば情報提供や、その後も必要な方には継続的な支援を行っている。サービス終了されたご家族様からのご相談があり、そこから新たなサービス利用につながった実績があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護者中心のケアではなく、その方に寄り添ったケアを行うように努めています。各ユニットのミーティングや申し送り簿などにて情報共有を行い、ケアの統一に努めている。	利用者に寄り添ったケアが行えるようまた、利用者や家族の思いがケアプランに反映されるよう詳細にフェイスシートを作成している。日々の様子や気づきを申し送り時に共有し毎日の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、ご家族様よりフェイスシートを用いたり、前施設から情報を収集し、状況把握に努め、入所の際は、昔のアルバムや馴染みの物を持参して頂き、ご利用者様との会話の中でこれまでの生活環境や生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りやミーティングを行う中で、入居者様のその日の状態（経過）を情報共有しケアの統一に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何かあればその都度、本人・家族の意向を伺い、主治医やクリニックとご相談し、担当者会議の中では職員も意見を出し合いながら、ご利用者様やご家族様の思いに寄り添った介護計画の作成を心掛けている。	本人や家族の意見や意向を基に定期カンファレンスやモニタリング評価等参考にするほか、主治医や看護師等による意見も汲み取り総合的な介護計画を作成している。また、定められた期間や身体状況の変化時だけでなく、本人家族の思いの変化にも配慮した柔軟な介護計画作成に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様一人ひとりの日々の様子やケア、サービス提供の内容、健康状態などを個別に記録し、職員間で情報の共有しながら実践し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じて、建物内に通い、近隣には小規模多機能施設やクリニックを活用し柔軟な支援やサービスを提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者・地域消防施設隊員を交えての消防訓練を年2回行っている。散歩や外気浴の際には地域の方々から声をかけて下さったりしています。地域に開けた施設を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医との連携を図り適切に医療が受けれるように月に2回の訪問診療と毎週の訪問看護にて医療を受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医による受診状況を把握するとともに、入居後も本人家族の希望する医療機関を受診できるよう家族と職員が協力して受診を支援している。受診の内容は「看護記録」に記載し、申し送り時等に情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居様様の日々の体調変化は細目に看護職員(しょこらクリニック)に伝えて相談し適切な受診や看護を受けられる環境作りに努め医療連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医を通じ、協力医療機関との連携を図り緊急時すぐに受け入れ体制を整えてもらえるようにしている。入院の際は、病院関係者へ情報提供を行い、退院の際は、カンファレンスに参加し病院関係者との情報交換や相談に努め退院後も早期に現状回復できるように情報収集に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、本人・ご家族様と主治医と連携を図り希望を第一に考えて支援している。事業所内でも「緊急時の対応及び看取りに関する方針」において方針を定め、利用開始時には本人や家族に主治医も交えて改めて説明し同意を得ている。	「重度化した場合における指針 看取りに関する指針」に加え、急変時等事前確認書と終末期ケア同意書を準備し、入居時に説明と同意を得るほか、終末期等状況に応じて再度説明と同意を取り交わすことで変化する本人家族の思いに応じている。また、年間研修計画に組み込むほか、職員が安心して支援できるようフォローアップ体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	目につくところに緊急時対応マニュアルを掲示し日頃から全職員が共有できるようにしている。応急手当や初期対応の訓練を施設内で研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回行われる消防訓練においては、様々な状況を想定しての訓練に取り組んでいる。消防訓練後には、消防の指導を仰ぎ今後の訓練に活かしている。地域の方々とは日頃からお付き合いを大事にして緊急時には協力を得られるよう働きかけるようにしているが、コロナ禍においては消防訓練に参加して頂けていない状況です。</p>	<p>夜間想定を含む火災、地震訓練を年2回実施している。以前は地域住民の参加が得られていたがコロナ禍の現在、情報交換は行っているものの参加は控えてもらっている。備蓄はレトルト食材や飲料水等、約3日分準備するとともに、防災用簡易トイレ等も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間の計画で定め各ユニットミーティングにて主任・副主任を中心に定期的に接遇の研修を行い理解を深めて頂きご利用者様一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシー確保に配慮したケアを心掛けている。	個人情報の取り扱いや権利擁護等、プライバシーに関する研修を定期的実施している。特に言葉遣いに関しては毎月のミーティングや運営推進会議等で意見交換を重ねている。トイレ誘導時はさり気なく声を掛ける等、羞恥心に気を配り対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での普段の会話から思いや希望を引き出せるような環境作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操・個別の運動・公文式等1日の流れはありますが、ご利用者様一人一人の体調を見ながら無理はせず参加出来るようにし、職員本意のケアにならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2か月に一度の出張カットを利用したりし、手や足の爪切りや耳かきを行い、爪切りのあとには好きな色のマニキュアを塗っておしゃれをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の誕生日や季節の行事には特別メニューを設けている。食を通じて季節を感じて頂いたり、誕生日にはご希望に沿ったメニューを提供し食事を楽しんで頂いております。コロナ禍の為感染予防の為一緒に準備をしたり片付けは中止しております。	栄養士や調理師、職員による調理ミーティングを定期的実施し、日常会話から把握した利用者のリクエストや誕生会メニューを献立に反映させている。コロナ禍で外食を控える代わりにテイクアウトを利用する等、工夫して対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士にてカロリー計算されており、摂取量の記録と2週に1回の体重測定を実施している。また、利用者の嚥下状態に合わせて食事形態の工夫や、介護用食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	新しく入所された方は、必ず初回の歯科往診を行い、口腔内の状態の把握に努め必要な場合は治療や義歯の調整を行っている。毎食後、口腔ケアを実施している。毎食後1日1回は職員が口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄剤による義歯洗浄を毎日行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パットやおむつは一人一人の排泄パターンを把握し、その時の状況に応じた物を使用し本人に気持ち良く排泄してもらえるように支援している。トイレでの排泄が難しいご利用者様も朝食後にトイレに案内し、排泄が行えている。羞恥心にも配慮している。	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握するとともに、尿量も計測しながらパット類の調整を行っている。夜間は睡眠を妨げないよう容量の大きいパットを使用している。また、トイレ誘導やパットの工夫、介助方法等が統一できるようケアプランに組み込んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が気味の方には主治医との連携を図り内服薬を処方して頂いたりします。水分摂取や体操・立ち上がり運動や廊下歩行など行い腹部の蠕動運動を刺激し、毎日の朝食にヨーグルトの摂取やアルカリイオン水の飲用や植物繊維を積極的に取り入れるなどし便秘予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本の入浴日（火・木・土）は決まっているがその他の日でも本人の希望があれば入浴可能である。必要に応じて、手浴・足浴・清拭も実施している。	週3回午後からの入浴を基本としているが、清潔保持の必要性や希望によりいつでも入浴は可能である。冬至にゆず湯を提供したり、普段から入浴剤を使用する等、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や年齢や身体状況に応じて、お昼寝はご本人様への確認の上、休息の時間を支援している。夜間は一人一人の就寝される時間に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の際は内服ミスなどの事故防止の為、職員2人で声を出してダブルチェックを行う。内服変更の際には申し送りし情報共有しミーティングの際にも薬の内容が変わった事による症状の変化の確認に努めている。また、薬の説明書を利用者ごとの個人ファイルに添付している。利用者の変化に職員全員で気付けるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月1回習字の日を設けて習字を行う事で、ご利用者様が他のご利用者様の書く習字を見て、「私もしたい」や「今日は習字」と楽しみにされておられる。毎月の季節の飾り作りも季節を感じられる物で楽しませている。洗濯物たたみも「できる事はするよ」と言って下さっている。外気浴を行い気分転換にも行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、遠出はなかなかできませんが、近くの公園へ、お1人ずつ桜を見にお花見に行ったりと出来る範囲での外出支援をおこなっている。	コロナ以前は年間外出計画を立て外出していたが、現在は近くの公園に花見に出かけたりドライブにより車窓からの眺めを楽しむ等、個別の外出が中心になっている。室内で過ごす時間が長いとストレスにつながる恐れがあるため、体力維持や外気浴も兼ねて15分程度の散歩を行い気分転換につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居時に本人・家族と話し合い、それぞれのご入居者様の力量、希望に応じて支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>お電話をと仰られた際には、ご家族様やご友人とお電話をお取次ぎしお話をしています。また季節のお便り（暑中見舞いや年賀状）を書く機会を設けている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>暑さや寒さなど居心地の良い室温や外からの光にも気を配り快適に過ごして頂ける環境作りを行っています。季節の飾り付けや貼り絵、お花を飾ったりし、ご利用様に季節感を感じ居心地良く過ごせるようにしている。洗物をする時などは、食器の洗う音にも気を配りご利用様が不快に感じないように心掛けスタッフの言動にも注意をはらい、声掛けの際は、どなたに声をお掛けしたかが分かるように声かけを行い、混乱のないよう落ち着いて過ごして頂けるように、心がけている。</p>	<p>フロアには利用者の書いた習字や季節毎の作品が掲示されており明るい雰囲気を感じられるほか、ソファやテーブル、テレビ等は動線に即して配置され居心地に配慮されている。浴室は広く、浴槽も大きいため仲の良い利用者同士で入浴することも可能で、シャワーチェアやシャワーキャリー等の福祉用具も充実している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間にソファやマッサージ機を置き、好きな所で好きなように思い思いに過ごせるように居場所の工夫をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自宅で使っていた馴染みの家具や装飾品、使い慣れた物を持ち込んで頂き、希望があれば畳敷きの部屋に工夫したり、ベッドの位置を好きなように変えりして本人が居心地良く過ごせるように工夫している。その人らしい居心地の良い居室となっている。</p>	<p>電動ベッドとエアコン、洗面台が備え付けられるほか、テレビや冷蔵庫、仏壇や位牌等を自由に持ち込み、これまでの馴染みの環境に近づけている。また、畳に布団を利用する方がいる等、個々の状態に合わせて対応している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや浴室に手すりをつけているので一人ひとりの持っている力を活かして安全に自立した生活を送れるようにしているが、スタッフは転倒などで怪我がないように常に見守りを行い安全に過ごして頂ける環境作りを行っている。トイレの場所も分かり易く「トイレ」と大きく表示している。目の不自由な方の為にトイレに鈴を設置しトイレを終えた際に鳴らして頂いたり。動線に物を置かないようにし安全に歩行出来るようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
		○	4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない